

**令和4年度  
全国学力・学習状況調査  
学校の調査結果**



**令和4年12月  
海老名市立大谷中学校**

令和4年度

# 全国学力・学習状況調査について

## 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

## 調査内容

- (1)教科に関する調査(国語, 算数・数学及び理科)  
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
  - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

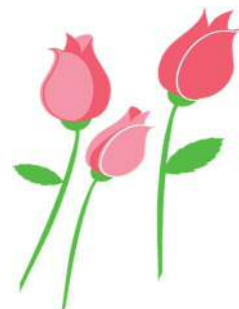
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 調査実施日

令和4年4月19日(火)

※児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施



# 中学校 国語

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫できるかどうかをみる。
- ・論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。
- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。
- ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができるかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。
- ・表現の技法について理解できているかどうかをみる。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解できているかどうかをみる。
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。
- ・行書の特徴を理解することができるかどうかをみる。
- ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解できているかどうかをみる。
- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解できているかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

- 「読むこと」の領域に優れています。問題3の設問四では、場面と場面、場面と描写を結びつけて内容を解釈する力や、描写を基に登場人物の心情を捉える力に成果がみられました。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、聞き手の興味・関心を考慮して表現したり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現したりするなど、より良いスピーチを行うために工夫する力の向上が窺えました。

### ◆課題のある点

- 「書くこと」に関する力に弱さがみられます。資料から必要な情報を見つけることはできていますが、適切に引用し文章を完成させる力に課題がみられました。
- 我が国の言語文化に関する事項では、行書の特徴や行書の書き方を理解する設問に課題がみられました。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

- 文章を書く際に、常に読み手の立場に立った表現や叙述を工夫し、客観的な視点を意識する習慣をつけさせる指導を心掛けていきます。お互いに文章を読み合い推敲していく中で、より良い表現の仕方を見つけ、自分の文章を見つめ直す機会を増やすなど、指導を工夫します。
- 文字の成り立ちや歴史的背景に触れつつ、身の回りの生活の中にある言葉には様々な書体や字形が効果に使われることを理解させ、文字文化の豊かさに興味・関心を持てるよう指導していきます。

# 中学校 数学

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・自然数を素数の積で表すことができるかどうかをみる。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる。
- ・反例の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・一次関数の変化の割合の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・式を変形したり、意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

- 「図形」の領域に関しての理解が高い傾向がみられました。特に、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件についての理解が高い様子が窺えました。
- データの活用の領域では、データの傾向を的確に捉え、判断した理由を数学的な表現を用いて説明することに関して良好な結果がみられました。

### ◆課題のある点

- 関数の領域では、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに関して課題がみられました。
- データの活用の領域では、箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに関して課題が残りました。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

- 関数の領域は毎学年で学習し、積み上げが重要になる範囲であるので、新しいことを学習する際に前年度までの既習内容を振り返り、理解が深まるように指導を工夫します。
- データの活用の領域の箱ひげ図に関しては、用語の意味を再確認するなど、箱ひげ図が効果的に使用できるように指導を工夫します。
- 思考・判断・表現の問題に関しては、比較的良好な結果がみられますが、類題を出題するなど、さらに高い理解を得ることができるように指導していきます。

# 中学校 理科

## 出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。
- ・静電気や気圧、岩石、状態変化に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。
- ・天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。
- ・化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・水素を燃料として使うしくみとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・複数の脊椎動物のあしの骨格について比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。
- ・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。
- ・大地の変動について他者の考察を、検討して改善できるかどうかをみる。
- ・時間的・空間的な見方を働かせながら、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。
- ・未知の節足動物とアリを比較して、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。

## 本校の調査結果

### ◆比較的できている点

- 「生命」を柱とする領域に関しての理解が高い様子がみられました。
- 「粒子」を柱とする領域と「エネルギー」を柱とする領域に関しては、モデルを使って思考していくことや、グラフを作成する技能に関しては良好な成果がみられました。
- 記述式の問題に関して正答率が高く、自分の理解している内容を、言語化して説明する力が育ってきている様子がみられました。

### ◆課題のある点

- 「地球」を柱とする領域に関しての理解に課題がみられました。1年次で学習した大地に関する部分と、天気に関する部分の両方の理解に課題が残りました。
- 「粒子」を柱とする領域と「エネルギー」を柱とする領域に関しては、粒子の保存性の視点や、静電気に関する知識及び技能を活用していく点に課題がみられました。

## 今後の具体的な指導改善のポイント

- 「地球」を柱とする領域に関しては、最も身近であるため、年間を通じていつでも授業の冒頭などに扱うことが可能であると思われます。噴火や台風の話など、より興味を持ち、感じた疑問点に関し、自ら学習していけるように指導を工夫します。
- 物質の粒子性は、理科において大変重要な視点ですが、実際に目に見えづらいので理解度が上がりにくいのが常です。しかし、モデルを使って思考する方法に成果がみられたので、見えないものに対してはモデルを用いイメージして理解を深められるように指導を工夫します。
- 静電気に関する知識及び技能に関しては、電子の動きという電気分野の根本を理解する必要があります。これも、実際に目に見えづらく理解しにくいので、同様にモデルを用い視覚化して理解を促すように指導を工夫します。

# 生徒質問紙

※「肯定的な回答」とは、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」との合計  
※（ ）内は、該当する質問の全国の数値

## 学習について

### ◆本校のよかったところ

○「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いでは肯定的な回答が83.9%(79.2)、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」では80.5%(63.3)と高い割合でした。学習に能動的に取り組み、自分が考えたことを、他者意識を持って表現を工夫し、発信しようとしています。

### ◆本校の課題と思われるところ

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」への肯定的な回答は74.7%(74.7)、「数学(理科)の授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考えますか」では、数学:43.6%(47.3)、理科:44.8%(52.7)となっています。学習活動の振り返りや学んだ内容を、次の活動や普段の生活に生かすことに課題が見られます。

## 生活について

### ◆本校のよかったところ

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに97.1%(95.0)、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いに89.7%(88.4)と、多くの肯定的な回答がありました。自分の力を他者のためにも積極的に役立てようと考え、それを日常的な場面で実行していることが窺え、周囲を大切にしながら思いやりを持って行動する力の高まりと評価できます。

### ◆本校の課題と思われるところ

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問いに肯定的な回答は59.8%(67.1)、「将来の夢や目標を持っていますか」では59.8%(67.3)、という結果でした。自分なりの夢や目標を定め、失敗することを心配するあまりに二の足を踏むことなく、困難を乗り越え、達成に向けて粘り強く取り組んでいこうとする気持ちを持つことが望まれます。

## 今後の具体的な取組について

○単元や題材を通して付けたい力をわかりやすく提示し、主体的に学ぼうとする意欲の向上を目指した指導に努めます。「学びが世の中とつながっているか」という視点から、学習内容が普段の生活にどう生かせるかを考えるなど、日常生活や社会とのつながりを意識した活動を進めていきます。

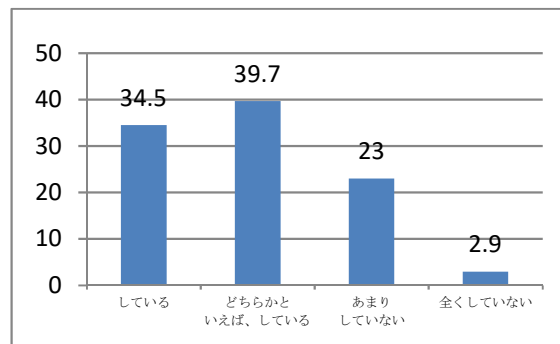
○多様な活動における成功体験を通して自信をつけるとともに、失敗した経験からも多くのことに気付き、それを基盤に成長していく機会となる行事などの計画・実施に取り組んでいきます。集団の中で一人ひとりの活動が相互に認められるように、指導・支援に努めます。

# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

## 1 生活習慣を整えましょう。

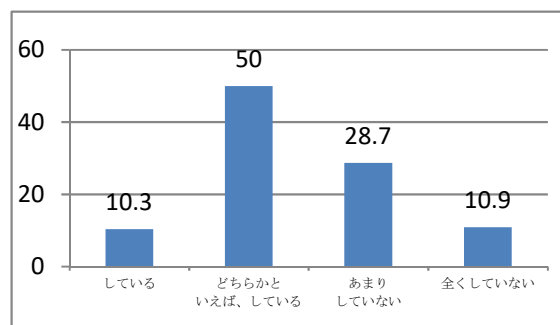
十分な睡眠が翌日の活力となり、充実した活動を支えます。寝る時間の目安を決め、それが習慣として定着するよう心がけましょう。



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

## 2 主体的に学習する姿勢を高めましょう。

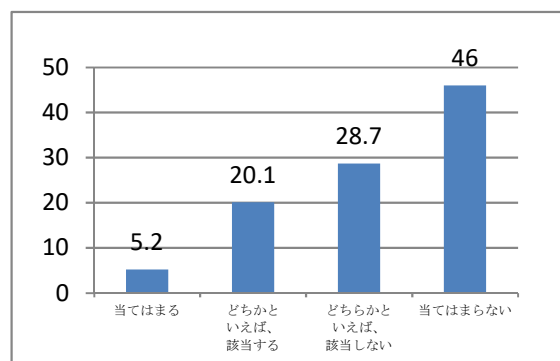
与えられた課題や決められた事柄に取り組む受け身の姿勢から、自分で見通しを立て、粘り強く学ぶ姿勢をさらに高めましょう。



自分で計画を立てて勉強をしていますか

## 3 地域や社会に目を向ける機会を持ちましょう。

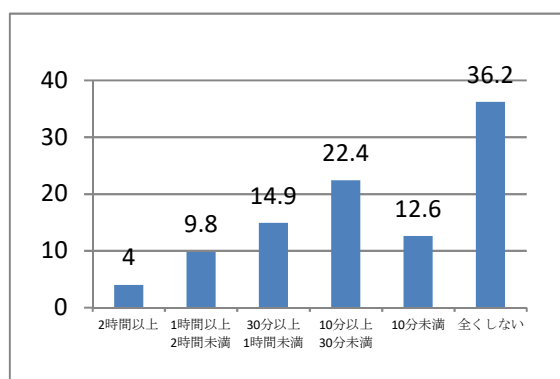
地域や社会の一員として人と関わった経験は、役割意識や自己有用感の向上に発展します。災害時等の助け合いにも生かされるでしょう。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

## 4 読書をする習慣をつけましょう。

読書を通して豊かな表現に触れることが、語彙の質や量の充実につながり、対話的な学びによる思考力や表現力の向上を支えます。



学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらい読書を読みますか

## 結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係